

ここから

放課後等デイサービス

児童発達支援

2017年度で3年目を迎えました世田谷区北鳥山の児童発達支援及び放課後等デイサービスここからでの音楽療育です。スタッフに子どもたちの日頃の様子を伺いながら、どのように介入していくか、また今必要なサポートは何かを話し合い、一緒に試行錯誤しながら取り組んでいます。

子ども達のレポートリーが増え、「この曲がやりたい!」「この楽器やりたい!」という気持ちが増え、スタッフも子ども達のやる気によりいっそう背中を押され、一緒に楽しんだ1年でした。



児童発達支援では、新しいお子さんが入り、新鮮な雰囲気が増しました。はじめはセラピストを見て泣き、歌いかけに恥ずかしがって俯いていたお子さんが、1年が終わる頃には、音楽の時間だとわかると自分から椅子を準備し、さあ、今日は何するの?と目をキラキラさせるようになりました。また、俯いていた顔も上がり、にこっと笑って応えてくれる様子もありました。特にお気に入りはおなかのすいたゴリラさんという歌で、ダンボール箱で作成したゴリラの人形の口の中に、おにぎりや野菜をあげるストーリーです。少し怪しげなベース音から始まるこの曲に、初めは怖がっていたものの、最後の方では思わず前に出てきておそろおそろ口に野菜カードを入れる様子に思わずほっこりしていました。自分の気持ちを声や言葉で伝えようとする場面も出てきて、後期には楽器を鳴らすことだけでなくセラピストとのやりとりが楽しく感じられるような瞬間も多くなっていったように感じられました。1回ごとに子どもたちの表情や感情を表現する様子の変化が見られ、スタッフと共に嬉しく思っています。

(林谷 嘉子)

放課後等デイでは、本年は新しいセラピストも加わりより賑やかな雰囲気の中、小学生グループ2つと中高生グループ1つの3組に分けて実施しました。

前半の小学生グループは、準備をしていると『あっ!』という間に部屋に入って来ます。さっと椅子に座って始まるのが待ちきれないといった様子に「この時間を楽しみにしているよ」という気持ちが伝わってくるようでとても嬉しくなりました。ギターが大のお気に入り、スタッフの手を取って鳴らして笑顔になり『もっと弾いてよ』という表情も向けてきてくれました。

2番目の小学生グループは鳴子にタンバリンなんでもござれ!とみんなで賑やかに楽しんでいます。ソーラン節の力強い『ソレソレ!』という掛け声から、トライアングルの素敵な音まで、完璧に作り上げました。「たいこかっこよかった!」とセッションが終わったあとにスタッフに話してくれることもありました。

最後の中高生のグループは、『ウィリアムテル序曲』『ファラドール』『カルメン』『アメリカンパトロール』などたくさんの合奏曲に取り組みました。「どの楽器やろうか?」「これやりたいな」「誰かやってくれないかな」「〇〇さんは何にする?」と話し合いをみんなでしました。

また、なかなか手で楽器を扱えなかったお子さんに短めのパチを「使ってみる?」と聞いて補助をしました。すると、楽器を鳴らす自信がついたようで他の楽器を選んで挑戦する姿が見られました。放課後デイのスタッフさんもその様子を見て「おどろいた!」「ぜひ他の遊びにも繋げたいなあ」とお子さんとの普段の関わり方を交えてフィードバックにも力が入りました。

(八嶋佐紀子)



外来療育



YYプロジェクトで
チョコフォンデュ♡

◇ YYプロジェクト

高校生以上の男子・女子10名の仲間たちとスタッフで文字通り「ワイワイ」しながら活動しています。当初は買い物、お料理、片付けなどを仲間とともにわいわいしながら取り組むというところからYYプロジェクトになりました。一つの料理でも我が家流がそれぞれあり、それもお互いがワイワイ言いながら楽しんでいます。

ここ数年は作って食べるだけではなく、より仲間を知る、自分を伝える、仲間とともに過ごすことが楽しい、ここに来たいと思えること、そんな活動を目指してきました。ゲームをしてはしゃぎ、つぎはどんなことがみんなでやりたいのか、どんな料理にチャレンジしたいのか、仕事はどんなことをしているのか、どんな趣味なのか、休みの日の過ごし方などをおしゃべりでリードをとる人、話し合いに気合を入れてくれる人、ここぞというときにアイデアを出してくれる人、みんなの話をニコニコしながら聞いているなど等。皆それぞれが一員として参加し、個々の個性と役割を發揮しています。家族ではないけれど楽しい仲間と共に楽しい時間を共有する場が増える事も人生が豊かになる一つなのではないでしょうか?次年度はご当地料理を調べて作ることに挑戦します。日本全国どこまで走破できるか楽しみです。

◇ 土曜親子リズム

就学前から小学校低学年の親子を対象にしたリズムの時間です。

土曜日なのでお休みのお父さんの参加も多くエネルギーにたくさん動いて踊って、歌って、楽器を鳴らして楽しい時間を過ごしています。普段、幼稚園・保育園・学校に通う子どもたちと月1回一緒に遊び共に楽しむ時間には家庭では見られない姿を見て子どもたちの思わぬ成長ぶりに驚かされることも多くあります。その中でお父さんから日頃お子さんに対して感じている事、心配なことをお聞きすることも、大切なことと考えています。



▲ 土曜親子リズム



▲夏期プログラム フラダンス



▲外来療育(個別)

◇ 夏期プログラム

木工：講師大前先生

「夏休みの自由制作を作るぞ」と毎年のように楽しみに参加してくれる子がいます。大前先生の工作の提案はその日作ったものが、①お家で役に立つ、②誰かと遊べる、③誰かを笑わせられる。な～んて楽しいと思いませんか?

フラダンス：柳澤先生とア・コア・コアの皆さん

親子で手作りのパウスカートを持参して参加してくれた方もいて意気込みバッチリ。自分たちが踊ることも楽しみ先生方のダンスをうっとり見とれる時間もありの楽しいひと時でした。

◇ グループホーム見学とホーム利用者のご家族からの経験談

実際にホームを見学して頂く事は昨年度も行いましたが、今年度はご家族のお話を伺うことが出来ました。

実際にどんなことに悩み心配し、入居を決断したのか。そして実際に今の親子の関係や日々の様子、感じていらっしゃる気持ちを率直にお話ししていただきました。参加者の皆さんは具体的なお話にイメージを膨らませながら共感しつつお話を伺うことが出来たようでした。

(栗原敦子)



施設支援



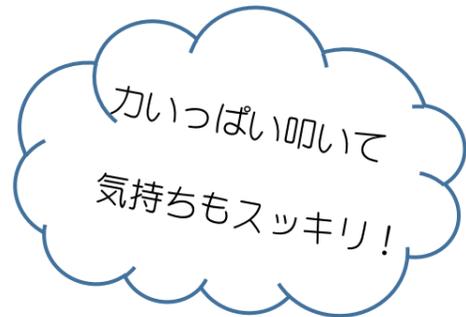
平成 29 年度は、定期的な施設支援として音楽療法を通じた関わりを法人内事業所 10 カ所、地域の事業所 15 カ所、また不定期に職員や保護者向け研修なども実施しました。

沢山行っている施設支援の中で、私たちがでんでん虫が大切にしていることは、事業所との回数に限りのある音楽療法をそこだけで終わらせず、その利用者さんの日常に繋げることです。支援を受けられた皆様の未来やその先の過ごし方を、より豊かで充実したものにできる支援はないか、という気持ちからでんでん虫は様々なプログラムを検討しています。

また、事業所スタッフさんと振り返りを行うことで、お互いに気付かなかった多面的な利用者さんの姿があると分かりました。事業所スタッフさんと振り返りをする際は、でんでん虫の思いをお伝えしつつ利用者さんの日常の姿を共有する密な時間となっています。

音楽療法を楽しみにしてくださっている利用者さんも増えて、事業所のスタッフさんから「今日の音楽をととても楽しみにしていました」と教えていただくと、とても嬉しい気持ちになります。

今後もでんでん虫と、施設支援を利用してくださる事業所とお互い高めあっていきたいと思えます。
(八嶋佐紀子)



児童デイサービスドリームでの取り組み

児童デイサービスドリームのスタッフのみなさんは、いつも「リズムの時間」を子どもたちと全力で関わって下さいます。言葉でのやりとりだけではなく、表情や雰囲気からその子の気持ちを察し、必死に観察して介入する入り口を探して下さるスタッフの皆さんには、本当に助けられています。

満足を感じられた子は、「やったー、つぎはなに?」と、ひとつの活動ごとの切り替えもスムーズになり、少しずつ集中する時間が長くなり、スタッフやお友達と関わることを心底楽しむようになります。

リズム後の活動の振り返りのときには、その日の様子だけでなく、日中の生活の様子や送迎車でのエピソードも聞くようにしています。子どもたちに「またドリームにきたい! もっとリズムをやりたい!」と思ってもらえるように、そして子供たちの経験を増やしてその子の力となって蓄えていかれるように、思い切り一緒に遊んで、思い切り笑いたいです。

週に 1 回の関わりですが、生活の中にほんのちょっとでもうれしい変化のお土産を手渡せるような取り組みをしていきたいと思っています。

(吉野紀子)